

【 A 修正案 】

私たちのまち流山市は、江戸川、利根運河などの水辺と下総台地に広がる豊かな森に囲まれたまちである。古くは米の集積地であり、江戸への交通の便の良さから醸造業が栄え、一茶などの俳人が行き来していた文化の薫るまちである。

流山市は、近年、つくばエクスプレスの開通により都心からの利便性が向上し、多くの新しい市民を迎え、発展した。その発展の一方で、沢山の森が失われ、従来の街並みを壊す開発が見られるなどの多くの課題も生じた。

流山の魅力は「都心から一番近い森のまち」という言葉に象徴される、都心からの利便性がよだけでなく 緑の多く人に優しいまちであることにある。この流山の魅力を継承し、高め、市民の意見や知恵、力がまちづくりに活かされるよう、独自の開発手続き、基準、市民によるまちづくりをまちづくり制度として位置づけることが求められた。これらのことから、市民、事業者、行政が、個々の利益を超え、互いに協力して新しい流山の価値を創造するために、流山自治基本条例に基づき、流山市街づくり条例を定める。

【 B 修正案 】

私たちのまち流山市は、江戸川、利根運河などの水辺と下総台地に広がる貴重な森に囲まれ、都心にもっとも近い、自然と都市が調和したまちである。

古くは田園風景が広がる米の集積地であり、江戸への水運の便の良さから醸造業が栄え、一茶などの俳人が行き来していた文化の薫るまちであった。

近年になり、つくばエクスプレスの開通により住宅地の発展と利便性の向上と引き替えに野鳥が生息する森の消失が課題となっている。「市野谷の森」は危機感を抱いた市民の尽力によって守られた森であり、他の地域の森の保存の先鞭となった。

このような地勢と歴史を有する流山市が「都心から一番近い森のまち」として、多くの市民の智恵を持ち寄って策定された「都市計画マスタープラン」や「流山グリーンチェーン戦略」を実践するためにまちづくりの手法を定めようとするものである。

私たちは高い志と互助の精神に基づき、「誰もが住んでみたくなるまち」「誰もが訪れたくなる魅力あるまち」「生活する幸せを感じられるまち」を目指し、生活者としての市民が主体的に関わり、市行政と市議会と事業者・建築主が相互に協力し、各々の役割と責任を果たしながら「協議による合意形成」の努力をすることによって、よりよいまちづくりを実践するものである。

これまでに先人が嘗々と築き上げてきたかけがいのない歴史と文化を継承し、貴重な森を維持・活用し、美しく心地よいまち並みをつくり、将来にわたり自然と都市の調和のとれたまちをめざし、ここに流山市街づくり条例を制定する。

流山市において建設または開発を行う建築主、事業主およびこれらの行為に携わるすべての者はこの条例をよく紐解き、関連法規と同様に街づくり条例を遵守することが求められる。